令和8年10月20日
庁　議　資　料

狛江市長
松　原　俊　雄　　様

狛江市市民参加と市民協働に関する審議会答申
（市民協働事業提案制度・令和８年度提案事業）

令和８年６月23日付け狛地協発第000109号にて狛江市長より諮問のあった「市民参加と市民協働の推進の検討と改善に関する事項」及び「市民協働事業の提案に関する事項」について、当審議会において検討を重ねた結果、別紙のとおり答申としてまとめましたので、報告いたします。

令和８年10月13日

狛江市市民参加と市民協働に関する審議会委員

会　長	重　藤　さわ子
副会長	関　谷　　昇
委　員	西　　智　子
委　員	深　谷　慎　子
委　員	岡　本　千栄子
委　員	麻　宮　　百
委　員	伊　東　達　夫
委　員	伊　藤　秀　親
委　員	遠藤貴美子
委　員	鳥　塚　鈴　子
委　員	吉　田　明　広
委　員	千　葉　尚　政
委　員	松　浪　大　輔

令和８年度市民協働事業提案制度について

１．プレゼンテーション及び審査会

日時：令和８年８月 29 日（土）　午前９時～

会場：防災センター４階会議室

担当：狛江市市民参加と市民協働に関する審議会委員（４人）

２．令和８年度提案事業　審査結果

■行政提案型市民協働事業・・・２件

事業名	応募団体名	協働実施部署（想定）	評価点	重点ポイント	審査結果
高齢者等への見守り事業	岩戸いきいき体操クラブ、狛江稲門会、狛江市・市民ひろばラジオ体操会	福祉相談課	81 点	50 点	採択
公園を活用したコミュニティガーデンの創出	狛江市菊花会	環境政策課	87 点	50 点	採択

■市民提案型市民協働事業・・・５件（うち採択２件）

事業名	応募団体名	協働実施部署（想定）	評価点	重点ポイント	審査結果
障がいのある方の表現を、まちのデザイン資源に変える社会参加支援事業	こまえフォント	高齢障がい課	80 点	48 点	採択
狛江市手話マルシェ 2027	狛江市聴覚障害者協会	高齢障がい課	94 点	60 点	採択
子どもを見送られたご遺族のためのグリーフケア支援事業～言葉にならなくてもいい対話とアートの居場所～	一般社団法人わかちゃんの絵本	子ども家庭課	54 点	31 点	不採択（評価点及び重点ポイントが基準点未満）
女性の健康について学び・語り合える「体験型セミナー」実施プロジェクト	特定非営利活動法人 FemLab	健康推進課	66 点	36 点	不採択（重点ポイントが基準点未満）
親子ワークラボ	PLATHOME 労働者協同組合	子ども若者政策課 協働コミュニティ課	67 点	36 点	不採択（重点ポイントが基準点未満）

※審査の詳細は別紙審査票のとおり

審査結果については、審査基準に基づき、別紙審査票の内容を審議会において審議し、総合的に判断した。

＜審査基準＞

【評価項目】

事業について：★公益性、具体性、実現性、効率性

団体について：★協働性、実施能力、★発展性

※重点ポイント（★）：６点満点（計 18 点）

それ以外の項目　：３点満点（計 12 点）

審査員個人の評価点合計：30 点

【評価点による基準：①・②両方を満たすこと】

①評価点：60 点

15 点（審査員個人の評価点合計 30 点×1/2）×審査員４人

②重点ポイント：48 点

６点満点中４点を基準とし、４点×３評価項目×審査員４人

３．総括

今年度については、行政提案型については２件の提案があり２件とも採択、市民提案型については５件の提案があり２件が採択となった。

提案事業については、協働性、公益性、発展性等の視点から採択することが望ましい事業があった一方、公益性は認められるものの、団体が設立されたばかりで経験が少なく、協働事業として提案することの意義や実現性が不明瞭と判断されて不採択となったケースもあった。

市民協働事業提案制度については、団体と行政がそれぞれの強みや役割を生かし、単独で取り組むよりも大きな効果が期待できる事業を協働して実施するという、制度本来の趣旨を改めて共有することが重要である。

提案する団体は、それぞれが地域課題や社会課題に対する問題意識を持ち、その解決に向けて活動しているものと考えられる。一方で、そうした活動を進める中で、「市と一緒に事業を実施したい」「市に自分たちの活動を理解してもらいたい」「市の協力を得ることで、活動をより広げたい」といった思いから、本制度への提案に至る場合もある。このような団体の思いを受け止めつつも、行政としては、単に団体活動への参加や、支援を行うことを協働と捉えるのではなく、協働によってどのような公共的成果や地域的効果を実現したいのかという視点を重視している。このため、団体が行政との協働を必要とする理由や、どのような段階・内容の事業であれば協働に意義があるのかを、より分かりやすく示していく必要がある。

また、市民協働事業提案制度を単独の制度として捉えるのではなく、市民活動団体の成長・発展を支援する取組の一つとして位置付けることも重要である。例えば、市民公益活動事業補助金等を活用して活動の実績や経験を積み、その上で、行政との役割分担や協働による相乗効果が見込める段階に至った団体が、市民協働事業にチャレンジするといった、団体の成長に応じた段階的な支援のあり方についても検討することが望まれる。

その際には、協働事業に取り組むことができる団体や事業の「成熟度」や「目安」を明らかにし、

団体に対して分かりやすく発信することが求められる。市民活動団体が、自らの活動状況や課題を踏まえて、「今は活動の実績や経験を積む段階なのか」「行政と協働することで、さらに課題解決や新たな仕組みづくりにつなげられる段階なのか」を考え、次のステップを目指せるような制度運用や情報発信の充実が望ましい。

さらに、提案が不採択となった場合においても、それを単なる「不採択」で終わらせるのではなく、団体の今後の取組につながる機会とすることが重要である。市民活動支援センターが中心となり、提案内容に応じて活用できる補助制度や支援策、今後の活動の発展に向けて必要な取組などを示すことで、団体がそれぞれの活動段階や目的に応じた次の一歩を踏み出せるよう引き続き支援していただきたい。

市民協働事業提案制度が、市民活動団体と行政が単に一つの事業を実施するための制度にとどまらず、団体が地域課題の解決に向けて取り組む中で、行政との協働が有効な選択肢となる場合には、その機会を提供する制度として活用されることが望ましい。協働事業へのチャレンジに限らず、団体が自立的に活動を発展させていくことも含め、それぞれの団体の状況や目的に応じた多様な活動の発展を支える仕組みづくりを期待する。

市民協働提案事業　審査票

提案団体名	岩戸いきいき体操クラブ、狛江稲門会、狛江市・市民ひろばラジオ体操会
提案事業名	高齢者等への見守り事業

◆事業について

①★**公益性**：提案事業は、地域社会の発展又は地域課題の解決に寄与するものであるか。また、不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与するものであるか。

1．大変寄与する（6点）　2．寄与する（4点）　3．あまり寄与しない（2点）　4．全く寄与しない（0点）	
16点 /24点	＜特記事項＞ ■高齢社会の中で、益々独居の高齢者が増える中で、市民が高齢者を見守る必要は高くなっている。まずは当事者目線で、お互いに見守りを進めていくためのシート作成や啓発活動は市民生活に寄与する。 ■高齢化や孤立化は避けて通れない。それらの方の支援を地域のボランティアで埋めることは有効であると考える。

②**具体性**：事業内容や実施方法に具体性があり、市と団体の役割分担が明確かつ適正か。

1．大変適正である（3点）　2．適正である（2点）　3．あまり適正でない（1点）　4．全く適正でない（0点）	
7点 /12点	＜特記事項＞ ■協働を希望する部署とも十分な検討をされており、具体的である。

③**実現性**：事業計画は妥当であり、事業に実現性があるか。

1．大変実現性がある（3点）　2．実現性がある（2点）　3．あまり実現性がない（1点）　4．全く実現性がない（0点）	
8点 /12点	＜特記事項＞ ■3団体で連携して活動していこうとするのはとてもよい。更に高齢者だけでなくシートづくりにおいても、若い世代からの意見をもらえる機会を作ることが望まれる。 ■既に市にもノウハウがあり、業者も含めて知見もあると思われる。既にあるシートも参考にしながら作成するとよいと思う。

④**効率性**：収支予算は妥当であり、事業に効率性があるか。

1．大変効率性がある（3点）　2．効率性がある（2点）　3．あまり効率性がない（1点）　4．全く効率性がない（0点）	
7点 /12点	＜特記事項＞

◆団体について

①★**協働性**：団体と市が協働することによって、さらなる効果が期待できる事業であるか。また、それぞれの強みを活かし、対等な立場で実施できる事業であるか。

1．大変期待できる（6点）　2．期待できる（4点）　3．あまり期待できない（2点）　4．全く期待できない（0点）	
18点 /24点	＜特記事項＞ ■3団体だけの連携だけでなく、市と協働することによって、地域のソーシャルワーカー、ケアマネージャーなど専門家が参加しやすくなり、また、その後のシート利用が現実的になると思われる。 ■見守りは行政側が対応できていない部分もあると思うので、行政との協働により本事業で漏れや重複がないよう意識してほしい。

②**実施能力**：提案団体は、提案事業を実施する能力を持つか。

1．大いに持つ（3点）　2．持つ（2点）　3．あまり持たない（1点）　4．全く持たない（0点）	
9点 /12点	＜特記事項＞ ■提案の3団体とも、長い間活発に活動している団体で意欲的である。 ■人員や地域のカバーの面は期待できる。具体的に見守り対象をどう決めるかは課題と思われる。

③★**発展性**：事業内容は、現状の団体の活動内容から発展性が見られるか。また、提案事業を実施することにより、団体の活動に発展が期待できるか。

1．大変期待できる（6点）　2．期待できる（4点）　3．あまり期待できない（2点）　4．全く期待できない（0点）	
16点 /24点	＜特記事項＞ ■今後、3団体がシートを作り、利用を促進する啓発活動をすることにより、より高齢者のつながりに幅が持てるようになるとともに、高齢者の問題を広く市民に知らせるチャンスになる。 ■活動時間の確保や更なる支援の必要性が生じた場合の対応（行政・医療・福祉との連携等）は検討課題である。

★特記事項、指摘すること・注意点・課題等

■見守りシート作成の時点から、より幅広い世代の意見をもらえるように、若い世代の団体やサークルにも呼び掛けて、ワークショップをより幅のあるものにしていただきたい。出来上がった後の普及啓発活動においても、高齢者が地域につながりが持てるように、地域の多世代も巻き込んで（映画を視聴等も計画されているので）企画していただきたい。高齢者の問題を広く市民に知らせるチャンスになる。
■サポートを受ける側の視点を汲んでいただきたい。
■シートが出来上がってからの利用に関しては、市との協働で活用方法を具体化してほしい。

【審査結果】採択

本事業は、高齢者等への見守りの重要性を広く市民へ周知・啓発するために市と団体が高齢者見守りシートを協働で作成し、周知のための公演会を開催するというもので、高齢化や地域の希薄化が進む中で、お互いに見守りを進めていくためのシート作成や啓発活動は市民生活に寄与するものである。

事業実施にあたっては、市、団体をはじめ、地域のソーシャルワーカー、ケアマネージャーなど専門家も含め、効果的なシートを作成いただきたい。

また、シート作成においては、若い世代からの意見をもらえる機会を作ることについても検討いただきたい。

評価点

81点　／120点

※基準点　60点

うち重点ポイント

50点　／72点

※基準点：48点

市民協働提案事業　審査票

提案団体名	狛江市菊花会
提案事業名	公園を活用したコミュニティガーデンの創出

◆事業について

①★**公益性**：提案事業は、地域社会の発展又は地域課題の解決に寄与するものであるか。また、不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与するものであるか。

1．大変寄与する（6点）　2．寄与する（4点）　3．あまり寄与しない（2点）　4．全く寄与しない（0点）	
16点 /24点	＜特記事項＞ ■市民の利用する公園整備は地域住民の手によって維持管理されることは望ましい。限られた公園だけでなくいろいろな場所で様々な市民が関わることで、地域の問題もお互いに共有できる。

②**具体性**：事業内容や実施方法に具体性があり、市と団体の役割分担が明確かつ適正か。

1．大変適正である（3点）　2．適正である（2点）　3．あまり適正でない（1点）　4．全く適正でない（0点）	
9点 /12点	＜特記事項＞ ■令和８年度から協働で取り組んでおり、内容が具体的である。

③**実現性**：事業計画は妥当であり、事業に実現性があるか。

1．大変実現性がある（3点）　2．実現性がある（2点）　3．あまり実現性がない（1点）　4．全く実現性がない（0点）	
9点 /12点	＜特記事項＞ ■令和８年度から協働で取り組んでいる内容であり、実現可能であると思われる。

④**効率性**：収支予算は妥当であり、事業に効率性があるか。

1．大変効率性がある（3点）　2．効率性がある（2点）　3．あまり効率性がない（1点）　4．全く効率性がない（0点）	
9点 /12点	＜特記事項＞ ■業者を入れて草木の手入れをするわけではなく、低予算で行うことができる。

◆団体について

①★**協働性**：団体と市が協働することによって、さらなる効果が期待できる事業であるか。また、それぞれの強みを活かし、対等な立場で実施できる事業であるか。

1．大変期待できる（6点）　2．期待できる（4点）　3．あまり期待できない（2点）　4．全く期待できない（0点）	
18点 /24点	＜特記事項＞

②**実施能力**：提案団体は、提案事業を実施する能力を持つか。

1．大いに持つ（3点）　2．持つ（2点）　3．あまり持たない（1点）　4．全く持たない（0点）	
10点 /12点	＜特記事項＞ ■菊花会が土台にあって、団体のメンバーで活動しているので、活動自体は持続できると思われる。高齢者中心であり、若い世代への継承も必要。

③★**発展性**：事業内容は、現状の団体の活動内容から発展性が見られるか。また、提案事業を実施することにより、団体の活動に発展が期待できるか。

1．大変期待できる（6点）　2．期待できる（4点）　3．あまり期待できない（2点）　4．全く期待できない（0点）	
16点 /24点	＜特記事項＞ ■今後、菊花会の価値観だけでなく、児童遊園を利用する子どもの活動への理解や地域や通行していく市民の生活価値観を取り込んで行く等少しずつ公園の花壇に対する視野も広げた活動になることが期待できる。

★特記事項、指摘すること・注意点・課題等

■今はまだまだ菊のウエイトが高いが、これからの変化に期待している。

【審査結果】採択

本事業は令和８年度から継続して実施するものであり、提案団体が児童遊園にコミュニティガーデンを設置するだけでなく、子どもや町会など地域を巻き込んだ活動に取り組んでいく内容となっており、公益性がある取組である。行政と団体の役割もはっきりしており、地域課題の解決にも寄与するものとなっている。

事業実施にあたっては、児童遊園であるという視点をもって、子どもの遊びへの理解、通行する親子や、近隣市民の生活にも配慮した整備を行っていただきたい。また、学齢期や若い世代や親子の活動なども考え、世代を繋いで他地域でもコミュニティガーデンが持続できるよう、柔軟に活動をつなげていただきたい。

評価点

87点　／120点

※基準点　60点

うち重点ポイント

50点　／72点

※基準点：48点

市民協働提案事業　審査票

提案団体名	こまえフォント
提案事業名	障がいのある方の表現を、まちのデザイン資源に変える社会参加支援事業

◆事業について

①★**公益性**：提案事業は、地域社会の発展又は地域課題の解決に寄与するものであるか。また、不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与するものであるか。

1．大変寄与する（6点）　2．寄与する（4点）　3．あまり寄与しない（2点）　4．全く寄与しない（0点）	
18点 /24点	＜特記事項＞ ■市民の障がい者理解を促進する効果はある。

②**具体性**：事業内容や実施方法に具体性があり、市と団体の役割分担が明確かつ適正か。

1．大変適正である（3点）　2．適正である（2点）　3．あまり適正でない（1点）　4．全く適正でない（0点）	
8点 /12点	＜特記事項＞ ■発想はとても良い。

③**実現性**：事業計画は妥当であり、事業に実現性があるか。

1．大変実現性がある（3点）　2．実現性がある（2点）　3．あまり実現性がない（1点）　4．全く実現性がない（0点）	
9点 /12点	＜特記事項＞ ■デザイナーの障がい者理解にもよるが、障がい者の感性を生かしていけるのか、また利用したいという理解ある事業者に広めることができるか見通せない面もある。市が利用することで広めることはできる。

④**効率性**：収支予算は妥当であり、事業に効率性があるか。

1．大変効率性がある（3点）　2．効率性がある（2点）　3．あまり効率性がない（1点）　4．全く効率性がない（0点）	
7点 /12点	＜特記事項＞ ■利用が進み金銭的にも還元できるようになった場合、障がい者本人（事業所）、シブヤフォントとの関係がどのようなものなのかが不透明で理解しにくい面がある。

◆団体について

①★**協働性**：団体と市が協働することによって、さらなる効果が期待できる事業であるか。また、それぞれの強みを活かし、対等な立場で実施できる事業であるか。

1．大変期待できる（6点）　2．期待できる（4点）　3．あまり期待できない（2点）　4．全く期待できない（0点）	
16点 /24点	＜特記事項＞ ■市がフォントを利用することで広めることはできる。

②**実施能力**：提案団体は、提案事業を実施する能力を持つか。

1．大いに持つ（3点）　2．持つ（2点）　3．あまり持たない（1点）　4．全く持たない（0点）	
8点 /12点	＜特記事項＞ ■デザイナーの障がい者理解にもよるが、障がい者の感性を生かしていけるのか、また利用したいという理解ある事業者に広めることができるか見通せない面もあり、今後の障がい者アートの理解普及とともに活動していく必要がある。

③★**発展性**：事業内容は、現状の団体の活動内容から発展性が見られるか。また、提案事業を実施することにより、団体の活動に発展が期待できるか。

1．大変期待できる（6点）　2．期待できる（4点）　3．あまり期待できない（2点）　4．全く期待できない（0点）	
14点 /24点	＜特記事項＞ ■内部での活動は着実に進んできている団体なので、今後市と協働のもと、広く障がい者団体の枠だけではなく広く市民と共に歩む視点での発展が期待できる。

★特記事項、指摘すること・注意点・課題等

■協働することで、フォント利用の市の利用・活動により、障がい者アートに関する市民の新たな理解が進み広げることはできると考えられる。

【審査結果】採択

本事業は、アートを通じて障がいのある人の社会参加や自己実現の機会を広げ、地域社会における障がい理解の促進と共生社会の実現に寄与する取り組みである。団体や代表の活動実績からも、広く障がい者や団体の枠だけではなく広く、市民と共に歩む視点での発展が期待できる。市との協働により、こまえフォントが広がることを期待している。

市民協働事業としてはこまえフォントを周知するための事業であると認識している。こまえフォントが利用されることで発生する収益やご当地フォントとの関係性については市の予算編成の中で整理していただきたい。

評価点

80点　／120点

※基準点　60点

うち重点ポイント

48点　／72点

※基準点：48点

市民協働提案事業　審査票

提案団体名	狛江市聴覚障害者協会
提案事業名	狛江市手話マルシェ2027

◆事業について

①★**公益性**：提案事業は、地域社会の発展又は地域課題の解決に寄与するものであるか。また、不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与するものであるか。

1．大変寄与する（6点）　2．寄与する（4点）　3．あまり寄与しない（2点）　4．全く寄与しない（0点）	
22点 /24点	＜特記事項＞ ■聴覚障害者に関しての理解を、広く市民に知らせることができる。 ■数の大小ではなく市としても寄与するものである。 ■耳の不自由な方と実際に触れ合う機会となる。

②**具体性**：事業内容や実施方法に具体性があり、市と団体の役割分担が明確かつ適正か。

1．大変適正である（3点）　2．適正である（2点）　3．あまり適正でない（1点）　4．全く適正でない（0点）	
9点 /12点	＜特記事項＞ ■規模が大きく、果たしてこの通りすべて実行できるか不安な面がある。具体的に参加人数・場所の動線など見直す必要がある。 ■役割分担は話し合いの余地がある。 ■当日のタイムスケジュール、会場配置図、行政との役割分担、雨天の場合のオプションをよく検討する必要がある。

③**実現性**：事業計画は妥当であり、事業に実現性があるか。

1．大変実現性がある（3点）　2．実現性がある（2点）　3．あまり実現性がない（1点）　4．全く実現性がない（0点）	
8点 /12点	＜特記事項＞ ■はじめての市民を巻き込んでのイベントであることを考えると、規模が大きすぎるという不安がある。会場の選定、タイムスケジュール、実行委員の動き方を含め少しスリムにして、目的を達成できるようにした方がよい。 ■外で小さめに始めるのがよい。 ■計画しているイベントの内容による。

④**効率性**：収支予算は妥当であり、事業に効率性があるか。

1．大変効率性がある（3点）　2．効率性がある（2点）　3．あまり効率性がない（1点）　4．全く効率性がない（0点）	
8点 /12点	＜特記事項＞

◆団体について

①★**協働性**：団体と市が協働することによって、さらなる効果が期待できる事業であるか。また、それぞれの強みを活かし、対等な立場で実施できる事業であるか。

1．大変期待できる（6点）　2．期待できる（4点）　3．あまり期待できない（2点）　4．全く期待できない（0点）	
22点 /24点	＜特記事項＞ ■協働の効果が期待できる提案である。 ■行政側に依頼することを明確化する必要がある。

②**実施能力**：提案団体は、提案事業を実施する能力を持つか。

1．大いに持つ（3点）　2．持つ（2点）　3．あまり持たない（1点）　4．全く持たない（0点）	
9点 /12点	＜特記事項＞ ■協会自体は安定的な団体であり実行力はあると思われるが、イベントが大きいだけに実行委員会のあり方、市との分担などしっかりと取り組んでいく必要がある。 ■多様なイベント、当日の運営規模と実績が釣り合わず不安がある。

③★**発展性**：事業内容は、現状の団体の活動内容から発展性が見られるか。また、提案事業を実施することにより、団体の活動に発展が期待できるか。

1．大変期待できる（6点）　2．期待できる（4点）　3．あまり期待できない（2点）　4．全く期待できない（0点）	
16点 /24点	＜特記事項＞ ■今まで内部での活動は着実に進んできている団体なので、今後市と協働のもと、広く障害者や団体の枠だけではなく広く市民と共に歩む視点での発展が期待できる。 ■継続企画でないと単なる記念行事にしかならないので継続していく必要がある。

★特記事項、指摘すること・注意点・課題等

■屋外で実施するという点については、多くの方が聴覚障害者や手話に触れることができるので、理解促進につながる取組である。

【審査結果】採択

本事業は、市民がろう者と自然に出会い、手話・身振り・筆談等を実際に使う機会を創出することを目的としており、聴覚障害者に対する理解促進に寄与する事業である。狛江駅前を活用することについても、多くの市民に触れることができるので、実施する意義はあると考える。

小規模の企画であるとのことであったが、初めて実施するイベントにしては規模が大きいように見受けられた。聴覚障害者に対する理解促進は継続して実施する必要があることから、まずは小規模から始め、徐々に規模を拡大していくことも一つの方法である。

事業実施にあたっては、担当部署とよく協議の上、規模の縮小も含め、安全に開催できる方法を検討いただきたい。

評価点

94点　／120点

※基準点　60点

うち重点ポイント

60点　／72点

※基準点：48点

市民協働提案事業　審査票

提案団体名	一般社団法人わかちゃんの絵本
提案事業名	子どもを見送られたご遺族のためのグリーフケア支援事業～言葉にならなくてもいい対話とアートの居場所～

◆事業について

①★**公益性**：提案事業は、地域社会の発展又は地域課題の解決に寄与するものであるか。また、不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与するものであるか。

1．大変寄与する（6点）　2．寄与する（4点）　3．あまり寄与しない（2点）　4．全く寄与しない（0点）	
10点 /24点	＜特記事項＞ ■市民に対してグリーフケアを理解してもらうきっかけにはなる。 ■かなりセンシティブなテーマである。本人の主体性がベースになっている。

②**具体性**：事業内容や実施方法に具体性があり、市と団体の役割分担が明確かつ適正か。

1．大変適正である（3点）　2．適正である（2点）　3．あまり適正でない（1点）　4．全く適正でない（0点）	
5点 /12点	＜特記事項＞ ■役割分担が協働の視点に立っていない。 ■市の有する相談リソースをどこに振り向けるかの問題かと思う。

③**実現性**：事業計画は妥当であり、事業に実現性があるか。

1．大変実現性がある（3点）　2．実現性がある（2点）　3．あまり実現性がない（1点）　4．全く実現性がない（0点）	
5点 /12点	＜特記事項＞ ■対象となる方は様々で個別的である。

④**効率性**：収支予算は妥当であり、事業に効率性があるか。

1．大変効率性がある（3点）　2．効率性がある（2点）　3．あまり効率性がない（1点）　4．全く効率性がない（0点）	
6点 /12点	＜特記事項＞

◆団体について

①★**協働性**：団体と市が協働することによって、さらなる効果が期待できる事業であるか。また、それぞれの強みを活かし、対等な立場で実施できる事業であるか。

1．大変期待できる（6点）　2．期待できる（4点）　3．あまり期待できない（2点）　4．全く期待できない（0点）	
12点 /24点	＜特記事項＞ ■グリーフケアの内容が、個別性が高いうえに臨床心理士の派遣等に関しても共に運営して行く視点ではない。 ■行政が関わることで信頼性が高まるという前提になっているのではないか。

②**実施能力**：提案団体は、提案事業を実施する能力を持つか。

1．大いに持つ（3点）　2．持つ（2点）　3．あまり持たない（1点）　4．全く持たない（0点）	
7点 /12点	＜特記事項＞ ■提案内容そのものは、実施できると考えられるが、参加者への配慮（そもそも参加者の把握も含めて）や専門家チームに対しての理解等が十分ではない。 ■現在活動していることの継続であれば問題ない。

③★**発展性**：事業内容は、現状の団体の活動内容から発展性が見られるか。また、提案事業を実施することにより、団体の活動に発展が期待できるか。

1．大変期待できる（6点）　2．期待できる（4点）　3．あまり期待できない（2点）　4．全く期待できない（0点）	
9点 /24点	＜特記事項＞ ■現行の提案では、個別のケアの範囲にとどまっている。 ■参加する人のニーズによる。

★特記事項、指摘すること・注意点・課題等

■グリーフケア支援は重要であり、内容についてはかなり繊細な部分を検討・考慮して市民に働きかけることが必要と思われる。

【審査結果】不採択（評価点及び重点ポイントが基準点未満）

本事業は、我が子を見送られたご遺族を対象に、専門職（臨床心理士・保健師等）の見守りのもと、言葉にならない想いを簡易なアート表現で外に出し、安心して思い出を語り合える「安全な対話の場」を創出するというもので、子どもを見送られた親のグリーフケアは重要な問題であり、趣旨は理解できる。

しかし、市の分担と考えている臨床心理士や保健師の派遣要請に関しては専門性を生かしての協働という考え方ではなく、安易な派遣を求めているように見受けられる。

また、グリーフケアについては家族を亡くした方の遺族など幅広く考える必要がある。

団体代表は現在グリーフケアを学んでいる途中にあるとのことなので、学びを進めていただきながら、グリーフケアの場など他の当事者ともつながる場を作る等、団体としての実績を積みながら、市民公益活動事業補助金の活用も視野に入れて少しずつ歩みを進めていただきたい。

評価点

54点　／120点

※基準点　60点

うち重点ポイント

31点　／72点

※基準点：48点

市民協働提案事業　審査票

提案団体名	特定非営利活動法人FemLab
提案事業名	女性の健康について学び・語り合える「体験型セミナー」実施プロジェクト

◆事業について

①★**公益性**：提案事業は、地域社会の発展又は地域課題の解決に寄与するものであるか。また、不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与するものであるか。

1．大変寄与する（6点）　2．寄与する（4点）　3．あまり寄与しない（2点）　4．全く寄与しない（0点）	
14点 /24点	＜特記事項＞ ■女性特有の悩みに対して、広く気軽に相談し語れる場を持とうと考えている視点はよい提案である。 ■地域の課題解決には直接結びつかないのではないか。

②**具体性**：事業内容や実施方法に具体性があり、市と団体の役割分担が明確かつ適正か。

1．大変適正である（3点）　2．適正である（2点）　3．あまり適正でない（1点）　4．全く適正でない（0点）	
6点 /12点	＜特記事項＞ ■市側に医師の講師交渉などもすべて頼っている。また体験する製品などが物品販売の広報活動とは違うということだがどうすみ分けていくのかが明確ではない。 ■イベントの告知などに限界が見られるがそこに行政の役割を期待されている。

③**実現性**：事業計画は妥当であり、事業に実現性があるか。

1．大変実現性がある（3点）　2．実現性がある（2点）　3．あまり実現性がない（1点）　4．全く実現性がない（0点）	
8点 /12点	＜特記事項＞ ■体験型ということで、オンラインではない良さを出そうという意図はわかる。より身近に気軽に参加できる工夫が必要。 ■場を設けることは可能だが、潜在層の掘り起こしは容易ではない。

④**効率性**：収支予算は妥当であり、事業に効率性があるか。

1．大変効率性がある（3点）　2．効率性がある（2点）　3．あまり効率性がない（1点）　4．全く効率性がない（0点）	
7点 /12点	＜特記事項＞ ■計画しているイベントの内容との関係では概ね妥当である。

◆団体について

①★**協働性**：団体と市が協働することによって、さらなる効果が期待できる事業であるか。また、それぞれの強みを活かし、対等な立場で実施できる事業であるか。

1．大変期待できる（6点）　2．期待できる（4点）　3．あまり期待できない（2点）　4．全く期待できない（0点）	
12点 /24点	＜特記事項＞ ■行政が関わることの心理的効果を過大に見積もっていないか気になる。

②**実施能力**：提案団体は、提案事業を実施する能力を持つか。

1．大いに持つ（3点）　2．持つ（2点）　3．あまり持たない（1点）　4．全く持たない（0点）	
9点 /12点	＜特記事項＞ ■関心のある層を対象にした相談事業の運営力は評価できる。

③★**発展性**：事業内容は、現状の団体の活動内容から発展性が見られるか。また、提案事業を実施することにより、団体の活動に発展が期待できるか。

1．大変期待できる（6点）　2．期待できる（4点）　3．あまり期待できない（2点）　4．全く期待できない（0点）	
10点 /24点	＜特記事項＞ ■メンバーは狛江在住の方２名で後は全国規模である。活動そのものは今後も発展できるであろうが、市民に特化して、団体の持っている力を開放していくということが広報活動も含めあまり意識されていない。 ■潜在層にも様々な問題があるはずで、やってみないと分からないという状態で進めることになりそう。 ■潜在層の掘り起こしが重要。

★特記事項、指摘すること・注意点・課題等

■オンライン相談ではなく、体験型のセミナーの中で気軽に相談できる場を作りたいという趣旨は理解できるし、また、今後の女性活躍に対しても必要なことである。

【審査結果】不採択（重点ポイントが基準点未満）

本事業は、女性の健康問題に関して、専門家を踏まえながら気軽に学び語り合える場を作ることを目的に「体験型セミナー」を開催するもので、意義ある活動であり、趣旨は理解できるものである。

しかし、女性の健康問題というセンシティブな問題に対し、対面での実施が気軽かどうかについては再度検討する必要がある。

また、今回の計画は特に狛江市民を意識してという特徴的なものではない内容と思われる。まずは団体で体験型セミナーを医師や保健師、必要に応じて企業からの提供等を力にして、市民公益活動事業補助金等も活用して実施してみることが必要と思われる。実施する中で内容・課題を整理して、広く市民を（必要に応じて中高女子も）視野に入れて、その上で市との協働も検討いただきたい。

評価点

66点　／120点

※基準点　60点

うち重点ポイント

36点　／72点

※基準点：48点

市民協働提案事業　審査票

提案団体名	PLATHOME労働者協同組合
提案事業名	親子ワークラボ

◆事業について

①★**公益性**：提案事業は、地域社会の発展又は地域課題の解決に寄与するものであるか。また、不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与するものであるか。

1．大変寄与する（6点）　2．寄与する（4点）　3．あまり寄与しない（2点）　4．全く寄与しない（0点）	
10点 /24点	＜特記事項＞ ■ガチャを活用して地域の中で循環する仕組みを作るという視点は、新規性があり、地域課題の解決に寄与する可能性がある取組である。 ■子どもの創作とあるが、製品そのものは既に決まっていてその中で子どもの作品利用であり、働くことに関しても、働く実感ややりがい感には繋がりにくい提案である。子どもを連れて一緒に語り作業できる場としての面では機能すると思われる提案である。 ■子どもの自発性を育む支援を行うこととガチャ製作のつながりが明確でない。

②**具体性**：事業内容や実施方法に具体性があり、市と団体の役割分担が明確かつ適正か。

1．大変適正である（3点）　2．適正である（2点）　3．あまり適正でない（1点）　4．全く適正でない（0点）	
8点 /12点	＜特記事項＞ ■既に試みも行っている様子であり、市の分担もある程度可能であると思われる。 ■やろうとしていることに具体性はあるが、事業により生まれる効果が見えにくい。

③**実現性**：事業計画は妥当であり、事業に実現性があるか。

1．大変実現性がある（3点）　2．実現性がある（2点）　3．あまり実現性がない（1点）　4．全く実現性がない（0点）	
7点 /12点	＜特記事項＞ ■実際に、作るイベントや作業手順は可能であるが、販売の点で市の協働があっても値段のこと、こまポのことなど、現実性が有るのかは疑問である。 ■ガチャを製作したことと、それが一般的に普及するかは疑問がある。

④**効率性**：収支予算は妥当であり、事業に効率性があるか。

1．大変効率性がある（3点）　2．効率性がある（2点）　3．あまり効率性がない（1点）　4．全く効率性がない（0点）	
7点 /12点	＜特記事項＞ ■ガチャの値段が高めであり、子どもの小遣いで繰り返し買いたいと思える値段ではない。 ■事業総数の見込み数量の根拠が不明確。

◆団体について

①★**協働性**：団体と市が協働することによって、さらなる効果が期待できる事業であるか。また、それぞれの強みを活かし、対等な立場で実施できる事業であるか。

1．大変期待できる（6点）　2．期待できる（4点）　3．あまり期待できない（2点）　4．全く期待できない（0点）	
12点 /24点	＜特記事項＞ ■団体には実績があるので、行政側の力を適切に連携できれば何らかの期待をできるように思った。

②**実施能力**：提案団体は、提案事業を実施する能力を持つか。

1．大いに持つ（3点）　2．持つ（2点）　3．あまり持たない（1点）　4．全く持たない（0点）	
9点 /12点	＜特記事項＞ ■代表理事は、他にも様々な活動をしており、全市に広げて販売促進の循環づくりに発展させるには団体として更に会員が必要なのではないかと思われる。 ■ご説明いただいた実績から期待できるように思われた。

③★**発展性**：事業内容は、現状の団体の活動内容から発展性が見られるか。また、提案事業を実施することにより、団体の活動に発展が期待できるか。

1．大変期待できる（6点）　2．期待できる（4点）　3．あまり期待できない（2点）　4．全く期待できない（0点）	
14点 /24点	＜特記事項＞ ■子どもの創発性と親の連携が維持・発展していくことのハードルが高いように感じられた。

★特記事項、指摘すること・注意点・課題等

■実際に実践もして取り組んでおり、この活動自体は団体として実施できると思われる。子どもの創造、働く体験とあるが、実際は子どもの絵を生かしてはいるが、イベントの中で組み込まれた作業を親子がその一部を手伝うだけになってしまいそうである。
　子どもの創造を生かすことや小さな子が一緒にいても仕事としてやった感がある状況に持って行くには、大人の参加者も主催者側と共に考え力を発揮できる視点が必要と思われる。

【審査結果】不採択（重点ポイントが基準点未満）
　本事業は、カプセルトイ（ガチャ）を一つの地域メディアとして活用し、子どもの創造性を地域へ届けること、子育て世代の新しい「はたらく」の選択肢をつくること、市民が地域活動を応援できる仕組みを育てることを目的とした事業で、ガチャを活用して地域の循環を作るという視点が非常に新規性があり、趣旨は理解できる。
　しかし、本事業を実施してくためには、ガチャを継続して相当数販売する必要があるが、その見込みが不明であることや、販売、購入等の循環を考えると値段やこまポの利用が本当に妥当か再考が必要である。また、子どもを連れて一緒に語り作業できる場としての面では機能すると思われるが、大人が働く実感ややりがい感には繋がりにくいとも思われる。まずは団体でガチャの利用について検証いただき、課題等を整理した上で市民公益活動事業補助金の活用も検討いただきたい。

評価点

67点　／120点

※基準点　60点

うち重点ポイント

36点　／72点

※基準点：48点